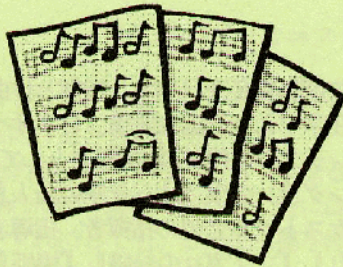


鎌倉交響楽団

サマーコンサート 2001

指揮：角 岳 史

司会：永 井 邦 子



2001年8月18日(土) 午後6時～7時30分

鎌倉芸術館小ホール

主催：鎌倉市教育委員会

プログラム

1. 鎌倉市歌

大木惇夫 詞／矢代秋雄 曲

2. 交響詩「前奏曲」

F.リスト

— 休 憩 —

3. 交響曲第6番「田園」

L.V.ベートーヴェン

第1楽章「いなかに着いた時のゆかいな気分」 Allegro ma non troppo

第2楽章「小川のほとり」 Andante molto mosso

第3楽章「いなかの人たちの楽しい集まり」 Allegro

第4楽章「雷と嵐」 Allegro

第5楽章「牧歌、嵐の後の喜びと感謝」 Allegretto

プロフィール

指揮：角 岳史

すみ たけし 島根県に生まれる。東京学芸大学芸術課程音楽科卒業。指揮と作曲を学ぶ。1995年秋よりウィーンに留学し研鑽を積む。在学中より新国立劇場、日本オペレッタ協会などをはじめとして各地の団体でオペラやオペレッタの指揮者、副指揮者として活動する。1998～1999年シーズンには劇団四季のロングラン公演『オペラ座の怪人』でミュージカル指揮者としてもデビュー。また、市民オーケストラや合唱の指揮者、指導者としても各方面で活躍している。演出家としては『こうもり』、『フィガロの結婚』、『椿姫』、『カルメン』、『オルフェオ』などのオペラを手掛けるほか、近年はコンサートの構成演出なども多く行っている。指揮を井崎正浩、湯浅勇二、山本訓久、松尾葉子の各氏に、作曲を故青木祐二、吉崎清富の各氏に師事。

司会：永井邦子

ながい くにこ 武蔵野音楽大学短大卒業。NHK横浜放送局、ラジオ日本でアシスタント・キャスターを勤めるほか、神奈川フィルハーモニー管弦楽団・群馬交響楽団・鎌倉交響楽団などのプロ、アマチュアのオーケストラの司会、各種シンポジウムの司会などで活躍している。

交響詩「前奏曲」

フランツ=リスト (1811~1886)

リストはロマン主義時代に「交響詩」の思想や形式を確立したことで知られており、13作の交響詩を残しています。交響詩とは、管弦楽によって詩的、絵画的な内容を表す音楽で、標題音楽の一種です。歴史的には表題音楽は、本日第二部で演奏する「田園」など、以前にもさまざまなものが書かれていましたが、リストは、標題を「器楽作品に作曲者によって与えられた前書きで、聞き手が作品から間違った詩的印象を受けるのを防ぎ、さらに作曲者が意図して詩的アイディアに注意を喚起するためのもの」と説明しています。

この曲は1845年に男性合唱曲の前奏曲として作曲されたものですが、合唱曲は出版できなかったため前奏曲が独立した作品として世に出ました。

曲は四つの部分に分かれています。第1部は、冒頭の弦のピッチカートに続いて低弦が死へと向かう人生の始まりを暗示する主題を、そしてホルンが愛を歌う主題を演奏します。第2部は、人生の嵐が、チェロのから金管のファンファーレへと高まる演奏で表現されます。第3部は、嵐の後の慰めを表しており、ホルンの牧歌的な旋律を中心に静かで平安な田園生活を描かれています。第4部は運命に果敢に挑戦する勇壮な行進曲です。曲が、弦楽器のめまぐるしい動きを背景とした金管の高らかなファンファーレへと発展した後、冒頭の死の主題を変形した旋律が力強く演奏され、華々しい高潮のなかで音楽は終わります。

交響曲第6番へ長調「田園」作品68

ルートヴィヒ=ファン=ベートヴェン (1770~1827)

田園 (パストラル) と名づけたのは、ベートヴェン自身で、彼が明確に表題を付けた交響曲は、この曲だけだと言われています。

田園の絵画的描写を行いながらも「単なる田園風景の描写ではなく、人間の内的感情 (豊かな自然に触れた時の喜びや楽しさ、時には恐ろしさなど) を描いたものだ」と彼は強調しています。いずれにしても、この様な描写性は後にベルリオーズやリストなど多くの作曲家達が影響を受けることとなります。

この曲は、1808年12月22日にアン・デア・ウィーン劇場において交響曲第5番 (運命) と同時に初演されています。

各楽章には (1) 田舎へ着いた時の愉快的な気分、(2) 小川のほとり、(3) 田舎の人々の楽しい集い、(4) 雷雨・嵐、(5) 牧人の歌・嵐のあとの喜びと感謝、という標題が付いていて、第3楽章以降は続けて演奏されるようになっています。